

岡山市歯科保健基本計画と4年間の取組

I 計画策定の趣旨・目的

歯と口腔の機能が人の全身の健康を維持増進する上で重要な役割を果たしていることから、本市の歯と口腔の健康づくりに関する施策を総合的かつ計画的に推進し、市民の生涯にわたる健康の増進に寄与するために、平成25年度には本計画を策定した。

II 計画の期間

平成26年度から平成34年度までの9年間の計画とし、平成29年度に「健康市民おかやま21（第2次）」とあわせて、中間評価を行うこととなっている。平成34年度には、最終年度における評価を行う予定。

III 計画の内容

「生涯を通じて、食事や会話を楽しむことができる」ことを最終目標とし、「歯と口の働き（口腔機能）の健全な育成、機能の維持・向上」と「障害者（児）、要介護者の口腔の健康の保持・増進への取組」に重点的に取り組むこととなっている。また、乳幼児期から高齢期・要介護期まで、各ライフステージに応じた取組をすすめるとともに、市民自らが自身の歯と口腔の健康づくりに取り組めるよう、市、市民、保健・医療等関係者、歯科医療従事者、事業主が連携・協力して環境づくりを推進すると定められている。

IV 4年間の取組

本計画に基づき、平成26～29年度の間に、新たに下記の事業に取り組んだ。

1 入所介護施設等への口腔ケア等導入支援事業（平成26年4月～）

【 概 要 】

歯科保健医療サービスの提供が困難な入所介護施設等利用者の口腔の機能及び衛生状態の改善・向上を図るとともに、各事業所が主体的に口腔ケア等を行う契機となることを目的に、歯科医師や歯科衛生士を派遣し、施設職員に口腔ケアの指導を実施。

【 実 績 】

年 度	実施施設数	口腔ケア実施者数
平成26年度	2施設	42人
平成27年度	2施設	58人
平成28年度	2施設	60人

2 妊婦・パートナー歯科健康診査（平成27年10月～）

【 概 要 】

妊婦とそのパートナーを対象に、自身と生まれてくる子どもの口腔衛生の向上を目的に、妊娠期間中に1回、歯科健康診査を実施。

【 実 績 】

年 度	健診受診者数	
	妊婦	パートナー
平成27年度	1,225人	591人
平成28年度	1,697人	762人

3 障害者（児）に対する歯科医療技術者養成事業（平成28年2月～）

【 概 要 】

障害者（児）の歯科治療については、むし歯や歯周病といった一般的な治療（1次治療）についても、全身麻酔を要するような治療（2次、3次治療）を実施する岡山大学病院や旭川荘などの高次医療機関が担っており、障害者（児）の歯科治療が長期に渡ってしまう等の課題がある。

そこで、歯科専門職に対し障害者（児）の様々な状態に応じた歯科治療に関する研修・指導を通じて、障害者（児）に対する1次治療を担える歯科診療所の増加を図り、もって障害者（児）の歯科診療環境の改善を目指す。

【 実 績 】

年 度	養成事業修了者
平成27年度	16人
平成28年度	11人

4 多職種連携等調査研究事業（平成28年度～）

【 概 要 】

重度の口腔粘膜炎をはじめ、がん治療に起因する口腔領域の合併症に悩むがん患者はいまだ少なくない。これらは、食事と生きる意欲を妨げるばかりか、がん治療自体を中止しなければならなくなる場合もあることから、病院内および病院と診療所等の連携をすすめると共に、がん治療前から外来通院がん治療中および緩和ケア中に至るまでの歯科治療や口腔ケア等を実践できる歯科医療機関を増やすことを目的に、がん患者における歯科治療や口腔ケアの標準的な方法を事例報告集に取りまとめた。今年度は、事例報告集を活用し、がん診療連携拠点病院及びがん診療連携推進病院の医師や、市内の歯科医療機関の歯科専門職を対象に、研修会を開催する。

【 実 績 】

年 度	事業内容
平成28年度	連絡会議（2回）、事例報告集作成

5 歯周病検診の対象年齢拡大（平成29年4月～）

【 概 要 】

高齢期における健康を維持し、食べる楽しみを享受できるよう、生涯にわたって歯・口腔の健康を保つために、歯周組織の健康状態を検査し、結果に基づいた適切な指導を行う。

平成8年度に40歳の市民を対象に事業を開始し、徐々に対象年齢を拡大し、30歳から50歳までの5歳毎を節目年齢として実施。高齢者の現在歯数が増加していることから、平成29年度には70歳までの5歳毎の節目年齢に対象を拡大した。

【 実 績 】

年 度	歯周病検診受診者
平成26年度	92人
平成27年度	61人
平成28年度	78人

V 中間評価の方法

アンケート等を実施し、計画の目標ごとに直近の状況を取りまとめた。

策定時と比べ、目標値に近づいていれば「改善」、目標値から遠ざかっている場合は「悪化」、変化がないものは「変化なし」とした。

VI 中間評価の概要

1 目標達成状況等の評価

○目標項目について、その達成状況を評価した結果は下表のとおり。

策定時の値と直近値を比較	項目数
改善しており、目標値を達成している	1 (4. 5%)
改善しているが、目標値を達成していない	12 (54. 5%)
変化なし	1 (4. 5%)
悪化している	8 (36. 4%)
合 計	22 (100. 0%)

※ 『「噛ミング30」運動の趣旨を理解し、推進に取り組む学校園・保育所・事業所等の増加』の項目は、学校、幼稚園・保育所、事業所の3つの目標項目として計上。

○目標値に達した項目は、次の1項目である。

- ・60歳で24本以上の自分の歯を有する人の増加（55～64歳）

○目標値に達していないが、改善傾向にある項目は、次の12項目である。

- ・障害者（児）入所施設での定期的な歯科検診の実施率の増加
- ・介護老人福祉施設・介護老人保健施設等での定期的な歯科検診の実施率の増加
- ・「噛ミング30」運動の主旨を理解し、推進に取り組む幼稚園・保育所等の増加
- ・3歳児でむし歯のない児の割合の増加
- ・3歳児で定期的にフッ素塗布を受けている幼児の割合の増加
- ・フッ素洗口を実施している幼稚園・保育所の増加
- ・「噛ミング30」運動の主旨を理解し、推進に取り組む学校の増加
- ・12歳児の一人平均むし歯数の減少
- ・過去1年間に歯科検診を受診した人の増加
- ・成人の喫煙率の低下（喫煙をやめたい人がやめる）
- ・40歳で喪失歯のない人の増加（35～44歳）
- ・職場で歯科検診を行っている事業所の増加

○目標値に達しておらず、策定時の値と直近値がほぼ変わらない項目は、次の1項目である。

- ・「嚙ミング30」運動の主旨を理解し、推進に取り組む事業所等の増加

○目標値に達しておらず、さらに悪化している項目は、次の8項目である。

- ・中学生で歯列・咬合・顎関節に異常のない者の割合の増加
- ・60歳代における口腔機能の低下が認められない人の割合の増加
- ・摂食機能療法を行う歯科医療機関の増加
- ・歯科訪問診療を行う歯科医療機関の増加
- ・バリアフリー（スロープ・手すり）の歯科医療機関の増加
- ・中学生における歯肉に炎症所見を有する者の減少（G、GOの合計）
- ・フッ素洗口を実施している学校の増加
- ・歯周病を有する人の割合の減少（40歳代における進行した歯周炎を有する人の減少（40、45歳））

2 目標達成項目の目標値

『60歳で24本以上の自分の歯を有する人の増加（55～64歳）』に係る目標値を下記のとおりとする。

	計画策定時	中間評価後
目標値	70%	80%

VII 目標と主な取組

1 重点的歯科口腔保健対策

(1) 歯と口の働き（口腔機能）の健全な育成、機能の維持・向上

QOL（生活の質）に大きく関与する食べる喜び、話す楽しみ等の向上を図るためには、歯と口の働きの健全な育成、機能の維持・向上が重要である。子どもの頃から「噛み飲み込むこと」を重点にした取組を進めた。

【目標と主な取組】

目 標	中学生で歯列・咬合・顎関節に異常のない者の割合の増加				目標値	増加
評価指標 及び 評 価	学校保健概要調査における中学生で歯列・咬合・顎関節に異常のない者の割合					
	計画 策定時	97.0%	中間 評価時	96.8% (平成28年度調査)	評価	悪化
主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ○おやこクラブ等衛生教育 ○三歳児歯科健康診査 ○健康教育・相談 ○口腔機能向上啓発ポスター 					

目 標	「噛ミング30」運動の主旨を理解し、推進に取り組む学校園・保育所・事業所等の増加				目標値	50%
評価指標 及び 評 価	学校園・保育所に対するアンケート及び健康市民おかやま21(第2次)の事業所アンケート結果					
	計画 策定時	保育所・幼稚園: 4.3% 学 校:16.2% 事業所等: 0%	中間 評価時	保育所・幼稚園等: 13.9% 学 校:36.4% 事業所等: 0% (平成29年調査)	評価	改善
主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ○おやこクラブ等衛生教育 ○健康教育・相談 ○口腔機能向上啓発ポスター 					

目 標	60歳代における口腔機能の低下が認められない人の割合の増加				目標値	80%
評価指標 及び 評 価	介護予防・日常生活支援調査における口腔機能の低下のおそれのない人(65～69歳基本チェックリスト3項目のいずれにも該当しない一般高齢者)の割合					
	計画 策定時	68.3% (平成22年度)	中間 評価時	54.1% (平成28年度調査)	評価	悪化
主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ○健康教育・相談 ○毎週・毎月介護予防教室 ○あつ晴れ！もも太郎体操普及・啓発 ○元気スマイル教室(通所・訪問) 					

目 標	摂食機能療法を行う歯科医療機関の増加				目標値	増加
評価指標 及び 評 価	おかもやま医療情報ネットの登録数					
	計画 策定時	50件 (平成25年10月)	中間 評価時	45件 (平成29年10月)	評価	悪化
主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ○健康教育・相談 ○毎週・毎月介護予防教室 ○あつ晴れ！もも太郎体操普及・啓発 ○元気スマイル教室(通所・訪問) 					

(2) 障害者（児）、要介護者の口腔の健康の保持・増進への取組

障害者（児）や要介護者の歯と口腔の健康の保持・増進への取組を各ライフステージにおいて進める。障害者（児）や要介護者の歯と口腔の健康は、全身の健康やQOL（生活の質）への影響も大きく、生涯を通じ、日ごろからの口腔のケアが重要。

【目標と主な取組】

目 標	障害者（児）入所施設での定期的な歯科検診の実施率の増加				目標値	100%
評価指標 及び 評 価	障害者（児）入所施設へのアンケート調査結果					
	計画 策定時	80.0%	中間 評価時	93.3% (平成29年調査)	評価	改善
主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ○健康教育・相談 ○障害者（児）に対する歯科医療技術者養成事業 					

目 標	介護老人福祉施設・介護老人保健施設等での定期的な歯科検診の実施率の増加				目標値	100%
評価指標 及び 評 価	介護老人福祉施設・介護老人保健施設等へのアンケート調査結果					
	計画 策定時	28.1%	中間 評価時	50.0% (平成29年調査)	評価	改善
主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ○入所介護施設等への口腔ケア等導入支援事業 ○健康教育・相談 ○在宅療養支援強化研修 					

目 標	歯科訪問診療を行う歯科医療機関の増加				目標値	300件
評価指標 及び 評 価	おかやま医療情報ネットの登録数					
	計画 策定時	219件 (平成25年10月)	中間 評価時	215件 (平成29年10月)	評価	悪化
主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ○入所介護施設等への口腔ケア等導入支援事業 ○健康教育・相談 ○障害者(児)に対する歯科医療技術者養成事業 ○多職種意見交換会 ○在宅療養支援強化研修 ○多職種連携等調査研究事業 					

目 標	バリアフリー(スロープ・手すり)の歯科医療機関の増加				目標値	300件
評価指標 及び 評 価	おかやま医療情報ネットの登録数					
	計画 策定時	230件 (平成25年10月)	中間 評価時	218件 (平成29年10月)	評価	悪化
主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ○入所介護施設等への口腔ケア等導入支援事業 ○健康教育・相談 ○障害者(児)に対する歯科医療技術者養成事業 ○多職種意見交換会 ○在宅療養支援強化研修 ○多職種連携等調査研究事業 					

2 ライフステージに応じた歯科口腔保健対策

(1) 乳幼児期

前歯でかじりとったり、唇を閉じて奥歯で噛んだり、口全体を使って、きちんと食
べることができるようになるための健全な歯と口腔の育成を目指す。

【目標と主な取組】

目 標	「嚙ミング30」運動の主旨を理解し、推進に取り組む幼稚園・保育所等の増加【再掲】				目標値	100%
評価指標 及び 評 価	学校園・保育所に対するアンケート結果					
	計画 策定時	4.3%	中間 評価時	13.9% (平成29年調査)	評価	改善
主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ○おやこクラブ等衛生教育 ○子どもの歯の相談 ○1歳6か月児歯科健康診査 ○三歳児歯科健康診査 					

目 標	3歳児でむし歯のない児の割合の増加				目標値	90%
評価指標 及び 評 価	三歳児健康診査におけるむし歯のない児の割合					
	計画 策定時	78.1%	中間 評価時	81.0% (平成28年度)	評価	改善
主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ○おやこクラブ等衛生教育 ○子どもの歯の相談 ○1歳6か月児歯科健康診査 ○三歳児歯科健康診査 					

目 標	3歳児で定期的にフッ素塗布を受けている幼児の割合の増加				目標値	70%
評価指標 及び 評 価	三歳児健康診査における定期的にフッ素塗布を受けている幼児の割合					
	計画 策定時	57.6%	中間 評価時	63.7% (平成28年度)	評価	改善
主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ○おやこクラブ等衛生教育 ○子どもの歯の相談 ○1歳6か月児歯科健康診査 ○三歳児歯科健康診査 					

目 標	フッ素洗口を実施している幼稚園・保育所の増加				目標値	増加
評価指標 及び 評 価	保健衛生年報の数値による					
	計画 策定時	幼 稚 園： 9 保 育 園： 6	中間 評価時	幼 稚 園： 9 保 育 園： 9 認定こども園： 2 (平成28年度)	評価	改善
主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ○おやこクラブ等衛生教育 ○子どもの歯の相談 ○1歳6か月児歯科健康診査 ○三歳児歯科健康診査 ○フッ素洗口 ○フッ素洗口連絡会 					

(2) 学齡期

乳歯から永久歯に生え替わる時期であり、生えたての永久歯はむし歯になりやすく、また、生え替わりの時期の口の中は磨きづらくなるなど、食生活など生活習慣の影響を受けやすい時期。

健全な歯と口腔の育成と自分の口の健康を守るための生活習慣を身につけることを目指す。

【目標と主な取組】

目 標	中学生で歯列・咬合・顎関節に異常のない者の割合の増加【再掲】				目標値	増加
評価指標 及び 評 価	学校保健概要調査における中学生で歯列・咬合・顎関節に異常のない者の割合					
	計画 策定時	97.0%	中間 評価時	96.8% (平成28年度調査)	評価	悪化
主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ○定期健康診断 ○歯科保健教育 ○カミカミ献立の実施 					

目 標	「嚙ミング30」運動の主旨を理解し、推進に取り組む学校の増加【再掲】				目標値	100%
評価指標 及び 評 価	学校園・保育所に対するアンケート結果					
	計画 策定時	16.2%	中間 評価時	36.4% (平成29年調査)	評価	改善
主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ○歯科保健教育 ○カミカミ献立の実施 ○食育指導 ○口腔機能向上啓発ポスター 					

目 標	中学生における歯肉に炎症所見を有する者の減少 (G, GOの合計)				目標値	減少
評価指標 及び 評 価	学校保健概要調査における歯肉に炎症所見を有する者の割合					
	計画 策定時	20.3% (平成26年度)	中間 評価時	21.1% (平成28年度調査)	評価	悪化
主な取組	<input type="checkbox"/> 定期健康診断 <input type="checkbox"/> 歯科保健教育 <input type="checkbox"/> 歯と口の健康週間図画・ポスターコンクール <input type="checkbox"/> 口腔衛生優良校及び努力校表彰 <input type="checkbox"/> 歯科研修会(教職員等対象)					

目 標	12歳児の一人平均むし歯数の減少				目標値	0.3本
評価指標 及び 評 価	学校保健概要調査における12歳児の一人平均むし歯数					
	計画 策定時	0.72本	中間 評価時	0.54本 (平成28年度調査)	評価	改善
主な取組	<input type="checkbox"/> 定期健康診断 <input type="checkbox"/> 歯科保健教育 <input type="checkbox"/> 歯と口の健康週間図画・ポスターコンクール <input type="checkbox"/> 口腔衛生優良校及び努力校表彰 <input type="checkbox"/> フッ素洗口 <input type="checkbox"/> 歯科研修会(教職員等対象)					

目 標	フッ素洗口を実施している学校の増加				目標値	増加
評価指標 及び 評 価	保健衛生年報の数値による					
	計画 策定時	10 小学校	中間 評価時	8 小学校 (平成28年度)	評価	悪化
主な取組	<input type="checkbox"/> 歯科保健教育 <input type="checkbox"/> フッ素洗口 <input type="checkbox"/> フッ素洗口連絡会					

(3) 成人期・妊娠期

自分の口の健康を守るための生活習慣を確立し、病気がなくても気軽に歯科医院に相談できるようになることを目指す。

子育て世代では、自分自身の口の中を健康に保ちつつ、生まれてくる子どもの歯と口腔の健康を守るための知識を身につけることを目指す。

【目標と主な取組】

目 標	過去1年間に歯科検診を受診した人の増加				目標値	65%
評価指標 及び 評 価	健康市民おかやま21(第2次)の市民アンケートの結果					
	計画 策定時	29.5%	中間 評価時	45.1% (平成29年調査)	評価	改善
主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ○健康教育・相談 ○歯周病検診 ○妊婦・パートナー歯科健康診査 					

目 標	成人の喫煙率の低下(喫煙をやめたい人がやめる)				目標値	8%
評価指標 及び 評 価	健康市民おかやま21(第2次)の市民アンケートの結果					
	計画 策定時	18.1%	中間 評価時	14.7% (平成29年調査)	評価	改善
主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ○健康教育・相談 ○歯周病検診 ○妊婦・パートナー歯科健康診査 					

目 標	「嚙ミング30」運動の主旨を理解し、推進に取り組む事業所等の増加【再掲】				目標値	8.5%
評価指標 及び 評 価	健康市民おかやま21(第2次)の事業所アンケートの結果					
	計画 策定時	0%	中間 評価時	0% (平成29年調査)	評価	変化なし
主な取組	<input type="checkbox"/> 健康教育・相談 <input type="checkbox"/> 歯周病検診 <input type="checkbox"/> 口腔機能向上啓発ポスター <input type="checkbox"/> 妊婦・パートナー歯科健康診査					

目 標	40歳で喪失歯のない人の増加(35～44歳)				目標値	80%
評価指標 及び 評 価	健康市民おかやま21(第2次)の市民アンケートの結果					
	計画 策定時	72.7%	中間 評価時	78.0% (平成29年調査)	評価	改善
主な取組	<input type="checkbox"/> 健康教育・相談 <input type="checkbox"/> 歯周病検診 <input type="checkbox"/> 妊婦・パートナー歯科健康診査					

目 標	歯周病を有する人の割合の減少(40歳代における進行した歯周炎を有する人の減少(40、45歳))				目標値	25%
評価指標 及び 評 価	歯周病検診の結果					
	計画 策定時	48.1% (平成21～23年度)	中間 評価時	51.5% (平成26～28年度)	評価	悪化
主な取組	<input type="checkbox"/> 健康教育・相談 <input type="checkbox"/> 歯周病検診 <input type="checkbox"/> 妊婦・パートナー歯科健康診査					

目 標	60歳で24本以上の自分の歯を有する人の増加(55～64歳)				目標値	70%
評価指標 及び 評 価	健康市民おかやま21(第2次)の市民アンケートの結果					
	計画 策定時	64.6%	中間 評価時	76.9% (平成29年調査)	評価	達成
主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ○健康教育・相談 ○歯周病検診 ○妊婦・パートナー歯科健康診査 					

* 目標値を達成したため、目標値を80%に変更

(4) 高齢期

入れ歯や口の乾燥、唾液の減少等で歯の自浄作用が低下することにより、歯や口腔のトラブルをおこしやすくなるため、筋力の低下や歯の喪失等による口腔機能の低下を防止することで、8020健康長寿社会の推進を図る。

【目標と主な取組】

目 標	60歳代における口腔機能の低下が認められない人の割合の増加【再掲】			目標値	80%	
評価指標 及び 評 価	介護予防・日常生活支援調査における口腔機能の低下のおそれのない人(65～69歳基本チェックリスト3項目のいずれにも該当しない一般高齢者)の割合					
	計画 策定時	68.3% (平成22年度)	中間 評価時	54.1% (平成28年度調査)	評価	悪化
主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ○健康教育・相談 ○歯周病検診 ○入所介護施設等への口腔ケア等導入支援事業 ○口腔機能向上プログラム ○毎週・毎月介護予防教室 ○あつ晴れ！もも太郎体操普及・啓発 ○元気スマイル教室(通所・訪問) ○多職種意見交換会 ○在宅療養支援強化研修 					

目 標	過去1年間に歯科検診を受診した人の増加【再掲】				目標値	65%
評価指標 及び 評 価	健康市民おかやま21(第2次)の市民アンケートの結果					
	計画 策定時	29.5%	中間 評価時	45.1% (平成29年調査)	評価	改善
主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ○健康教育・相談 ○歯周病検診 ○入所介護施設等への口腔ケア等導入支援事業 ○口腔機能向上プログラム ○毎週・毎月介護予防教室 ○あつ晴れ!もも太郎体操普及・啓発 ○元気スマイル教室(通所・訪問) ○多職種意見交換会 ○在宅療養支援強化研修 					

目 標	摂食機能療法を行う歯科医療機関の増加【再掲】				目標値	増加
評価指標 及び 評 価	おかやま医療情報ネットの登録数					
	計画 策定時	50件 (平成25年10月)	中間 評価時	45件 (平成29年10月)	評価	悪化
主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ○健康教育・相談 ○入所介護施設等への口腔ケア等導入支援事業 ○口腔機能向上プログラム ○毎週・毎月介護予防教室 ○あつ晴れ!もも太郎体操普及・啓発 ○元気スマイル教室(通所・訪問) ○多職種意見交換会 ○在宅療養支援強化研修 					

目 標	歯科訪問診療を行う歯科医療機関の増加【再掲】				目標値	300件
評価指標 及び 評 価	おokayama医療情報ネットの登録数					
	計画 策定時	219件 (平成25年10月)	中間 評価時	215件 (平成29年10月)	評価	悪化
主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ○健康教育・相談 ○入所介護施設等への口腔ケア等導入支援事業 ○口腔機能向上プログラム ○多職種意見交換会 ○在宅療養支援強化研修 					

目 標	バリアフリー(スロープ・手すり)の歯科医療機関の増加【再掲】				目標値	300件
評価指標 及び 評 価	おokayama医療情報ネットの登録数					
	計画 策定時	230件 (平成25年10月)	中間 評価時	218件 (平成29年10月)	評価	悪化
主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ○健康教育・相談 ○入所介護施設等への口腔ケア等導入支援事業 ○口腔機能向上プログラム 					

(5) 要介護者

要介護者の歯と口腔の健康は、単に口の中だけでなく、発熱や肺炎等全身の健康へも影響を及ぼすため、日ごろからの口腔のケアが重要。介護者や本人が歯や口腔のことで困らずに、安全に食べられ、会話を楽しむ生活ができることを目指す。

【目標と主な取組】

目 標	介護老人福祉施設・介護老人保健施設等での定期的な歯科検診の実施率の増加【再掲】				目標値	100%
評価指標 及び 評 価	介護老人福祉施設・介護老人保健施設等へのアンケート調査結果					
	計画 策定時	28.1%	中間 評価時	50.0% (平成29年調査)	評価	改善
主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ○入所介護施設等への口腔ケア等導入支援事業 ○口腔機能向上プログラム ○多職種意見交換会 ○在宅療養支援強化研修 					

目 標	歯科訪問診療を行う歯科医療機関の増加【再掲】				目標値	300件
評価指標 及び 評 価	おかやま医療情報ネットの登録数					
	計画 策定時	219件 (平成25年10月)	中間 評価時	215件 (平成29年10月)	評価	悪化
主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ○健康教育・相談 ○入所介護施設等への口腔ケア等導入支援事業 ○口腔機能向上プログラム ○多職種意見交換会 ○在宅療養支援強化研修 					

目 標	バリアフリー(スロープ・手すり)の歯科医療機関の増加 【再掲】			目標値	300件
評価指標 及び 評 価	おかやま医療情報ネットの登録数				
	計画 策定時	230件 (平成25年10月)	中間 評価時	218件 (平成29年10月)	評価 悪化
主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ○健康教育・相談 ○入所介護施設等への口腔ケア等導入支援事業 ○口腔機能向上プログラム 				

3 歯と口腔の健康づくりを支え、守るための環境づくりの推進

どんな健康な人であっても、歯と口腔のケアは定期的に行うことが必要であり、市民自らが自身の歯と口腔の健康づくりに取り組むため、歯科保健医療を生活の一部として利用できるよう、環境を整備することが重要。

【目標と主な取組】

目 標	「嚙ミング30」運動の主旨を理解し、推進に取り組む学校園・保育所・事業所等の増加【再掲】				目標値	50%
評価指標 及び 評 価	学校園・保育所に対するアンケート及び健康市民おかやま21(第2次)の事業所アンケート結果					
	計画 策定時	保育所・幼稚園: 4.3% 学 校:16.2% 事業所等: 0%	中間 評価時	保育所・幼稚園等: 13.9% 学 校:36.4% 事業所等: 0% (平成29年調査)	評価	改善
主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ○おやこクラブ等衛生教育 ○健康教育・相談 ○イベント(健康市民おかやま21(第2次)等) ○定期健康診断 ○歯科保健教育 ○歯と口の健康週間図画・ポスターコンクール ○口腔衛生優良校及び努力校表彰 ○カミカミ献立の実施 ○食育指導 ○口腔機能向上啓発ポスター ○健康教育・相談 ○歯周病検診 ○妊婦・パートナー歯科健康診査 					

目 標	歯科訪問診療を行う歯科医療機関の増加【再掲】				目標値	300件
評価指標 及び 評 価	おかやま医療情報ネットの登録数					
	計画 策定時	219件 (平成25年10月)	中間 評価時	215件 (平成29年10月)	評価	悪化
主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ○健康教育・相談 ○入所介護施設等への口腔ケア等導入支援事業 ○口腔機能向上プログラム ○多職種意見交換会 ○在宅療養支援強化研修 ○おかやま医療情報ネット ○歯周病検診 ○イベント(健康市民おかやま21(第2次)等) 					

目 標	バリアフリー(スロープ・手すり)の歯科医療機関の増加【再掲】				目標値	300件
評価指標 及び 評 価	おかやま医療情報ネットの登録数					
	計画 策定時	230件 (平成25年10月)	中間 評価時	218件 (平成29年10月)	評価	悪化
主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ○おかやま医療情報ネット ○イベント(健康市民おかやま21(第2次)等) ○健康教育・相談 ○入所介護施設等への口腔ケア等導入支援事業 ○訪問口腔指導 ○口腔機能向上プログラム 					

目 標	職場で歯科検診を行っている事業所の増加				目標値	15%
評価指標 及び 評 価	健康市民おかやま21(第2次)の事業所アンケートの結果					
	計画 策定時	1.3%	中間 評価時	3.2% (平成29年調査)	評価	改善
主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ○おやこクラブ等衛生教育 ○健康教育・相談 ○歯周病検診 ○イベント(健康市民おかやま21(第2次)等) 					

VIII 主な取組の概要

1 母子歯科保健事業

(1) おやこクラブ等衛生教育

【 概 要 】

おやこクラブ等を対象に、歯科保健基本計画の周知やフッ素洗口体験を含むむし歯予防、口腔機能の育成等に関する歯科衛生教育を行う。

【 実 績 】

年 度	実施回数	人数
平成26年度	72回	2,941人
平成27年度	63回	2,710人
平成28年度	51回	1,942人

(2) 子どもの歯の相談

【 概 要 】

口腔衛生対策上、重要な時期である幼児期に健診を行い、必要な者に対してはフッ素塗布等の処置を講じるとともに、保護者に対し口腔衛生思想の普及啓発を図る。

【 実 績 】

年 度	実施回数	受診数	フッ素塗布者
平成26年度	36回	1,299人	1,119人
平成27年度	36回	1,192人	960人
平成28年度	36回	1,306人	989人

(3) 1歳6か月児歯科健康診査

【 概 要 】

身体及び精神発達の上で、重要な時期である1歳6か月児について、疾病等の早期発見及び育児支援を行うことを目的として実施している。食生活の確立やフッ素の利用などのむし歯予防方法、口腔機能の育成に関する指導を行う。

【 実 績 】

年 度	対象数	受診数	う蝕有病者率
平成26年度	6,510人	6,104人	1.1%
平成27年度	6,441人	6,061人	1.1%
平成28年度	6,521人	6,211人	1.0%

(4) 三歳児歯科健康診査

【 概 要 】

身体発育及び精神発達の面から重要な時期である三歳児に対し、医師等による発育状態、疾病の有無等の健診を実施している。各種心身障害の早期発見及び早期療育を行うことを目的として実施している。食生活の確立、フッ素の利用などのむし歯予防法、口腔機能の育成、不正咬合の治療に関する指導を行う。

【 実 績 】

年 度	対象数	受診数	う蝕有病者率	不正咬合
平成26年度	6,646人	6,036人	20.4%	1,842人
平成27年度	6,474人	5,889人	20.1%	1,776人
平成28年度	6,410人	5,983人	19.0%	1,834人

(5) フッ素洗口推進事業

【 概 要 】

永久歯のむし歯予防のため、フッ素洗口（ブクブクうがい）を実施する。

【 実 績 】

年 度	保育園	幼稚園	認定こども園	小学校
平成26年度	10	9	1	11
平成27年度	11	9	1	11
平成28年度	9	9	2	8

2 成人・高齢者歯科保健事業

(1) 健康教育

【 概 要 】

生活習慣病の予防、健康増進等に関する正しい知識の普及を図ることにより「自らの健康は自らがつくる」という認識と自覚を高め、壮年期からの健康の保持増進に役立てることを目的として実施している。歯科保健基本計画の周知や歯周病予防、口腔機能の維持・向上に関する健康教育を行う。

【 実 績 】

年 度	回数	受講者数
平成26年度	102回	3,466人
平成27年度	102回	3,335人
平成28年度	96回	3,173人

(2) 健康相談

【 概 要 】

心身の健康に関する個別の相談に応じて必要な指導及び助言を行い、家庭における健康管理に役立てることを目的として実施している。歯周病の治療や口腔機能の維持・向上に関する指導・助言を行う。

【 実 績 】

年 度	回数	受講者数
平成26年度	123回	243人
平成27年度	123回	209人
平成28年度	126回	267人

(3) イベント（健康市民おかやま21（第2次）等）

【 概 要 】

歯と口の健康週間行事および健康市民おかやま21（第2次）推進イベントの実施。歯科保健基本計画の周知やフッ素洗口の体験を含むむし歯予防方法の普及、咀嚼力判定ガム等を用いた口腔機能に関する知識の普及等を行う。

【 実 績 】

年 度	回数
平成26年度	14回
平成27年度	16回
平成28年度	13回

3 学校歯科保健事業

(1) 定期健康診断

【 概 要 】

毎年度6月30日までに全児童生徒を対象に定期健康診断を実施。

【 実 績 】

年 度	未処置むし歯を持った者の割合（小学校）
平成26年度	22.2%
平成27年度	21.7%
平成28年度	21.0%

(2) 歯と口の健康週間図画・ポスターコンクール

【 概 要 】

岡山市歯科医師会等と連携し、年1回、小学校は1学年1点（1,000人以上の在籍校は2点）・特別支援学級1点・中学校3点を上限とし、歯と口の健康週間図画・ポスターコンクールを実施。

【 実 績 】

年 度	応募者数
平成26年度	485人
平成27年度	489人
平成28年度	463人

(3) 歯科保健教育

【 概 要 】

全学校で、実態に応じて、保健学習・保健指導等の学校教育活動における様々な機会をとらえて実施。

(4) 歯科研修会（教職員等対象）

【 概 要 】

毎年度1回岡山市内歯科医師会連合会等と連携して、教職員等を対象に研修を実施。

【 実 績 】

年 度	受講者数
平成26年度	87人
平成27年度	63人
平成28年度	88人

(5) カミカミ献立の実施

【 概 要 】

かむことの効用について指導するため、学校給食の基本献立に月2回程度、かみごたえのある食材や献立を取り入れている。

(6) 食育指導

【 概 要 】

小中学校の学校給食献立に「よくかんで食べる習慣を身につけること」をねらいとした献立を取り入れ、給食を教材として、給食時間に教室での指導や校内放送での指導、また、給食便り等を通じた指導を実施。

(7) 口腔衛生優良校及び努力校表彰

【 概 要 】

学校歯科保健の推進を図るため、岡山市内歯科医師会連合会等と連携し、毎年、市内学校8校を口腔衛生優良校及び努力校として表彰。

4 介護予防事業

(1) 毎週・毎月介護予防教室

【 概 要 】

運動機能向上、栄養改善、口腔機能向上、認知症予防、グループワーク等を行いつつ、必要に応じて外部講師（医師・薬剤師・音楽等）を招き、仲間づくり・地域づくりを行いながら介護予防を図る。介護予防の実践の場とともに、通いの場の創出への動機づけの場や、ボランティア活動の場など、介護予防の拠点としての役割を担う。

【 実 績 】

年 度	回数	延人数
平成26年度	820回	20,085人
平成27年度	732回	19,940人
平成28年度	652回	17,181人

(2) あっ晴れ！もも太郎体操 地域啓発・普及事業

【 概 要 】

自主的に介護予防に取り組む団体に「あっ晴れ！もも太郎体操」の内容や効果等を説明し、普及啓発を図る。また、交流会や出前講習等を実施することで、その活動を支援する。

【 実 績 】

年 度	回数	延人数
平成26年度	307回	4,325人
平成27年度	329回	4,951人
平成28年度	403回	5,792人

(3) 元気スマイル教室（通所・訪問）

【 概 要 】

要介護に陥るリスクの高い高齢者に対して、リハビリ専門職等により提供される、3ヶ月間の短期間で行われる教室。訪問型・通所型サービス及び生活支援サービスを組み合わせて実施することにより、生活課題の改善を図る。

【 実 績 】

年 度	回数	延人数
平成26年度	144回	1,016人
平成27年度	215回	1,627人
平成28年度	144回	932人

(4) 口腔機能向上プログラムを活用した指導

【 概 要 】

地域包括支援センターの歯科衛生士が中心となって、毎週・毎月介護予防教室や、あっ晴れ！もも太郎体操、元気スマイル教室等の参加者に対し、口腔機能の重要性といった知識の普及及び口腔機能の維持・向上に関する指導を実施。

5 在宅医療・介護連携推進事業

(1) 多職種意見交換会

【 概 要 】

職種や分野（医療、介護）による連携の障壁をなくし現場に生かせるネットワークの構築と、地域の課題解決に向けて取り組む場として、市内6福祉区ごとの多職種による意見交換会を開催する。

【 実 績 】

年 度	回数	参加者数
平成26年度	13回	1,183人
平成27年度	11回	1,267人
平成28年度	12回	1,275人

(2) 在宅療養支援強化研修

【 概 要 】

本人の状態に応じた医療的ケア等必要な支援が受けられるよう、市内の介護支援専門員に医療に関する研修を開催する。また、研修受講修了者の在籍する事業所に対し「岡山市在宅療養支援強化研修修了事業所」として修了証書を交付している。

【 実 績 】

年 度	回数	修了事業所数
平成26年度	—	—
平成27年度	8分野×1クール	118
平成28年度	8分野×2クール	136

Ⅸ 今後の取組の方向性

中間評価のまとめ

「Ⅳ 4年間の取組」「Ⅶ 目標と主な取組」で述べているように、平成26年の計画策定以降、「市民の自主的な取組の促進」、「保健・医療等の関連施策の有機的な連携による取組の推進」、「ライフステージの特性に応じた取組の推進」を基本理念に、重点課題である「歯と口の働き（口腔機能）の健全な育成、機能の維持・向上」、「障害者（児）、要介護者の口腔の健康の保持・増進への取組」を進めるとともに、乳幼児期から高齢期・要介護者まで、生涯にわたる歯科口腔保健対策の推進に努めてきた。

乳幼児期は生涯にわたる歯科保健行動の基盤が形成される時期であり、3歳児のむし歯の状況の改善は、乳幼児の健全な育成のために不可欠であるが、子どもの歯の相談におけるフッ素塗布の実施や、1歳6か月児・3歳児健康診査等の機会を捉えた、保護者などに対する知識の普及に向けた取り組みの結果、3歳児健康診査におけるむし歯のない児の割合の増加や、12歳児の一人平均むし歯数の減少といった改善が見られた。

更には、本計画策定以前から実施されてきた「歯と口の健康週間図画・ポスターコンクール」など、う蝕などの歯科疾患の改善を主眼に置いた中長期的な取り組みや、極力天然歯質を保存するという考えを基本としたう蝕治療法をはじめとした歯科医療技術等の進歩の結果、40歳で喪失歯のない人の割合などの、成人期以降の残存歯の状況は改善しており、中でも、60歳で24本以上の自分の歯を有する人の割合は目標値を達成している。

一方で、う蝕有病状況や残存歯の状況が改善し、定期的に歯科検診を受診する人や、職場で歯科検診を行っている事業所が増えているにも関わらず、中学生における歯肉に炎症所見を有する者の割合や、40歳代における進行した歯周炎を有する人の割合といった、歯周病に関連する指標の数値は悪化していた。歯周病は、成人期以降の歯の喪失の主要原因であるばかりでなく、糖尿病や循環器疾患のリスクを高めることから、より一層の予防対策が求められるところである。

また、過去1年間に歯科検診を受診した人の割合は増加しており、本市においても健康教育や介護予防教室等において、高齢期における口腔機能の維持・向上の必要性や対策方法について普及・啓発を行ってきたところであるが、60歳代における口腔機能の低下が認められる人の割合は悪化している。

近年「オーラルフレイル」といった新たな概念の中で、食習慣を含む食環境の悪化から始まるサルコペニアを中心とする身体機能低下と虚弱化、さらに最終的には生活機能障害から要介護状態へ至る構造的な流れが唱えられているところであり、様々な医療関係者が、食環境や口腔機能における初期の虚弱兆候（虚弱サイン）をいかに見逃さないようにするか、更には、市民自身がより早期の気づきを持って歯科口腔機能の維持・改善に普段から心がけるといふ、いわゆる歯科口腔機能への意識変容に向けた啓発も必要となっている。

また、障害者（児）、要介護者は、歯と口腔の健康診断や治療を受けにくい環境にあり、

歯と口腔の健康が、全身の健康やQOL（生活の質）に及ぼす影響が大きく、日ごろからの口腔のケアが重要であることから、重点的歯科口腔保健対策として取組を進めてきた。

障害者（児）入所施設や介護老人福祉施設・介護老人保健施設等で定期的に歯科検診を実施している施設は増えつつあり、歯と口腔の健康、口腔ケアの重要性が浸透しつつあることがうかがえる。

しかし、施設に入所していない障害者（児）、要介護者も多く存在するため、訪問診療を担う歯科医療機関の増加や、対象者が身近な場所で歯科診察が受けられるような環境が求められるが、訪問診療を行う歯科医療機関の数は増えていない。

これまでの取組を継続することはもちろんのこと、このような課題を踏まえ、今後の取り組みの方向性を検討する。

1 口腔機能の維持・向上に関する取組

- 高齢期における口腔機能の維持・向上の重要性について、市民はもちろんのこと、歯科医療関係者をはじめとした、様々な医療関係者の認知度を高める必要がある。

歯科医療機関や、内科診療所をはじめとした各種医療機関、薬局等の待合にセルフチェックリストを掲示する等、口腔機能の維持・向上の重要性に関する普及・啓発を図るとともに、口の体操・唾液腺マッサージ等の対応方法についても周知を図る。

また、初期の虚弱兆候（虚弱サイン）などの高齢期の口腔機能評価に関する医科と歯科の連携体制について検討が必要である。

- 口腔機能の維持・向上を図るためには、口腔機能を正しく評価し、治療あるいは指導できる専門職の養成も必要である。歯科専門職向けの研修会等を実施し、高齢者の口腔機能の低下に適切に対応できる環境づくりを検討する。

2 障害者（児）、要介護者が歯科治療・指導が受けられる環境整備

- 介護老人福祉施設・介護老人保健施設等の施設職員を対象に、口腔ケアの実践的な研修として、口腔ケア等導入支援事業を実施しているが、入所者に対して継続的に口腔ケアを提供していくためには、事業終了施設の職員に対して、より実践的なフォローアップの研修等が必要である。

- 歯科治療をはじめとする口腔機能の維持管理は、食べるという機能ばかりでなく、生きる力やQOLの向上に寄与することが明らかになっており、外来受診が困難な場合であっても治療を受けることができる環境づくりは重要であるが、歯科訪問診療実施医療機関数は増えていない。歯科訪問診療にかかる障害について、意識調査を行う等、検討が必要である。

- 障害者（児）に対する診療機会の提供に向けて、平成28年2月から歯科医療技術者養成事業を実施しているが、養成事業終了後に診療を實踐できる場を設けるなど、自院診療に向けた支援について検討が必要である。

3 歯周病対策

- 中学生の歯肉に炎症所見がある者の割合が増えており、学校で実施する歯科検診の結果通知等を活用し、学校歯科医の協力を仰ぎながら、生徒や保護者に対する周知・啓発を図る。
- 成人期の歯周病対策については、内科医療機関と歯科医療機関相互の連携を図り、適切な治療に繋がるよう働きかけを行う等の検討が必要である。さらに、商工会議所等と協力して、事業主や従業員に対する歯周病対策の周知・啓発を検討する。
- 有病者の歯周病治療の重要性に関して、医科と歯科の連携を深める必要があり、医師等他職種への理解を深め、お互いに顔の見える関係づくりについて検討する。